アクアマリンふくしま
アクアマリンこども魚市場

開催期間：2021 年７月 15 日（木）～2021 年８月６日（金）
2021 年 10 月１日（金）～2022 年１月 16 日（日）
※2022 年１月 17 日（木）～2022 年５月８日（日）は
自主事業として継続実施

【企画展の内容・目的】

■福島県の漁業をテーマとして、様々な形式で情報を与える中に遊びの要素を入れることで子供にも分かり易い内容で、過去・現在の視点から暮らしにおける漁業や水産資源としての重要性を再確認し、未来に向けて持続可能な漁業を実施するために何が必要なのかを考える機会とした。

■漁業を行う側（人間側）からだけでなく獲られる側（漁獲物）から体験できるハンズオン展示物を取り入れ、様々な漁法が魚の習性に合わせて効率よく獲るために工夫されるということに着目した展示を作成した。

■漁業に対して親しみを持ち、漁業を適正に管理することで豊かな生態系を守り、持続可能な漁業は搾取ではなく育成であるということに意義を感じ、将来、海を適正に管理する漁業関係者になりたいと思うきっかけを作ることを心がけた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

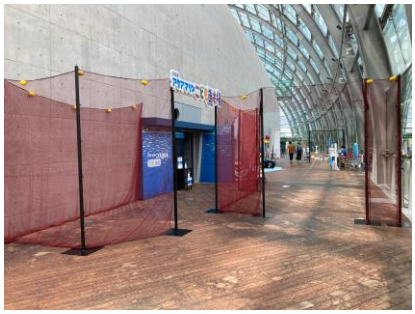
１．企画展示の内容

■開催期間：2021 年７月 15 日（木）～2021 年８月６日（金）
2021 年 10 月１日（月）～2022 年１月 16 日（日）
2022 年１月 17 日（木）～2022 年５月８日（日）は自主事業として継続実施

■開催場所：アクアマリンふくしま　マリンホール

■入場者数：203,110 人

アクアマリンふくしま　外観



企画展会場　入口

導入部は入口に定置網を小型化したミニチュアを展示。観覧者はその中を通って展示スペースに入る。ミニチュアの定置網の中を魚と同じように網の奥へ入ることで自分が魚になった気になりテーマである漁業について自然と意識するようにし、内部は魚のイラストを配置し、どのような魚種が漁法の対象になっているのかを学べるようにした。
「定置網」という言葉は聞いたことがあっても実際にはどのようなものなのかわからないと思うことで、自分が漁業についてよくわかっていないということに気づき、漁業に対する興味をもたせ、企画展示に対する学習意欲を自然と高めた。同時に、魚の視点で定置網の奥に進むことで定置網の魚を獲る仕組みを獲られる側から学び、様々な漁法が効率よく魚を獲るようにしている工夫を学べる。
導入部が「獲る側（人間側）」、「獲られる側（漁獲物）」の両面からの視点で作られていることを自然と感じ、「海の利用」と「海を守る」のバランスについて意識するようになる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

代表的な６つの漁法（定置網漁、刺し網漁、篭（かご）漁、筒（どう）漁、栽培漁業、内水面漁業）をテーマにした活魚水槽を設置し、それぞれの漁法で獲れる魚種を活魚水槽内に展示する。さらに、展示されている魚種を使った料理の食品サンプルも活魚水槽内に展示した。活魚水槽の周りにはそれぞれの漁法に関連する漁具などを展示した。
それぞれの漁法で獲れる生きた対象魚を展示することで、どの漁法がどんな魚を獲るためにあるのかということを視覚的にわかるようにし、そのような漁法が向いているのか魚の習性、生態を考えさせるよう工夫した。生きた魚と漁具を展示することで漁業が食材を集めるためのものではなく生き物を捕まえるためのものであることを紹介した。持続的な漁業を行うためには海の生産力を維持しなければ余剰分である漁獲が減少していくことを理解し、持続可能な漁業のための海洋保全の必要性を感じられるものとした。
また、食品サンプルを水槽内に設置することで生物＝漁獲物＝食材を結びつけることで、命を食べるということを考えさせるようにした。一番身近な食卓と漁場を直結させることにより、漁業という営みが生きた生物を人間の生活・生存のために食材として捕獲することを理解し、海の恵みが我々の生活に不可欠なものであることを学ぶ機会とした。

刺し網や篭などをモチーフにした体験型の展示物で遊びながら漁具の仕組みや獲り方を学ぶハンズオン展示を製作した。巨大な釣具で遊ぶことで、魚を獲るための仕掛けを体感させた。獲る側（人間側）として行う遊具と獲られる側（漁獲物）として行う遊具の両方を体験することにより漁労と漁獲圧を体感し、漁業と海の再生産のバランスが重要であることを理解した。
裸足で遊ぶコーナーなど小さな子供でも遊べる展示とし、自然に漁業に興味をもたせる。こうした漁具をモチーフにした展示物未就学児が遊べるエリアを設けることで漁業を遊びながら体感し、成長してからも親しみが持てるようになるよう心がけた。また、子どもが遊んでいるところを親が見ることにより、一緒に来た保護者にも展示物に対しても自然と展示に目が行き漁業について考えてもらえるものとした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

福島県の漁獲生物をテーマにしたトレーディングカードを製作した。カードは展示内に答えがあるクイズに答えることでガチャガチャをひき、出てきたものを入手できるようにしてゲーム性をもたせた。漁獲生物カードはガチャによって入手できるので、自分でカードを選ぶことができないことで近隣の来館者は再入館して企画展を複数回の利用を促し、繰り返し効果によって学習成果を高めることができた。

【来館者の声】

◯普段よくわからない魚のとり方を知ることができた。いつも食べている海の生き物に感謝したいと感じました。

◯食べるものなので、海を汚せば、結局は自分たちに回ってくるから、海をよごさないようにしたい。

◯種類が少なくなっている生物がたくさんいた、子供達が大きくなった時にみれないのはかわいそう

◯魚は大嫌いですが、今回の企画でもう少し寄り添い理解を深めたくなりました。今日はそのきっかけになりました。ありがとうございました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2．関連事業の内容

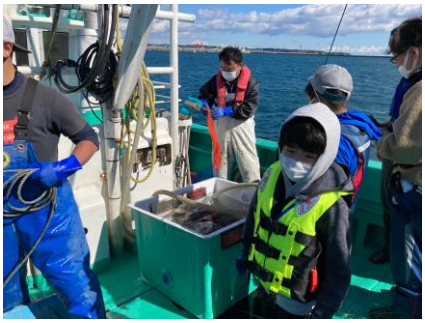
■漁師になって魚をとってみよう

【開催日時】2021 年 10 月 23 日（土）8：00 ～ 12：30
【開催場所】小名浜港、小名浜魚市場
【参加者数】16 人
【実施内容・目的】

- ●隣接する小名浜港の魚市場を見学し、魚市場で働く人の話しを聞き、海産物が実際に家庭に届くまでにある様々なプロセスを見る。
- ●漁船に乗って漁を見学することで、漁業に従事している人の働く姿を見て、海で働くということを実感する。
- ●魚市場で模擬せりを行い、漁で捕れた魚をどのようにさばいているかを体験する。

小名浜魚市場

実施説明の様子



漁船に乗ることによって魚を捕る工夫を見たり、漁師さんからの苦労話を聞くことにより海の資源を利用するということを学習した。多くの魚が漁獲されていることを見て、個々の家庭で海産物を消費しているということが全体では膨大な量になるということを感じ、海洋の生産力の高さに気づくようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

自分たちが乗船して捕ってきた魚を市場に持ち帰り、模擬せりを行った。実際に自分で行うことで海の恵を得るためには職業として働くプロが必要であることを感じ、海に従事する職業の重要性に気づいた。
また、一人ひとりが少しずつ海産物を無駄にすることで苦労して漁獲した資源を無駄に消費してしまい、敷いては膨大な量の資源が無駄になってしまうということを学習した。

【来館者の声】

◯船から海の下に沈んでいるゴミがたくさんあるのが見れた。前に参加して学んだプラスチックゴミもあった。とれなくなってきている魚があることが人間の問題だと感じた。

◯自然の中で自由に生きていた魚をとって命をいただくことの尊さを感じことができたと思います。昔はたくさんとれていた魚が今は少ししかとれないということで、気候変動などで海やそこに生きている物たちに大きな影響があることを知ることができました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■カレイとヒラメどうちがうの？

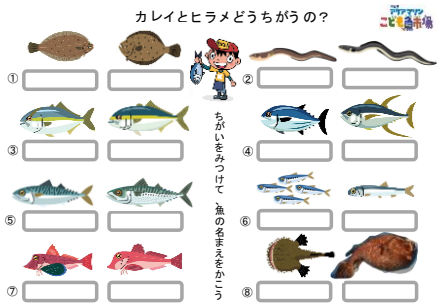
【開催日時】2021 年 11 月 23 日（火）9：00 ～ 16：00
【開催場所】アクアマリンふくしま　南テラス
【参加者数】74 人
【実施内容・目的】

●食卓や魚屋で一般的に並べている魚でも、その区別があまりされていない魚（マイワシとカタクチイワシ、ヒラメとカレイの仲間など）を並べて観察し、その違いを理解することで、生物として漁業資源を観察する。

●展示する魚は地元産のものを中心に選出し、魚の生態や海洋生態系のつながりを解説し、地先の海の豊かさを感じてもらうと同時に海洋環境の保全が豊な食生活を守ることにつながることを理解してもらう。

開催場所：アクアマリンふくしま南テラス

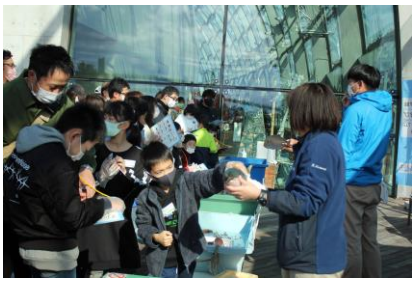
受付場所の様子



最近はスーパーなどでよく見かける魚は切り身になっていることが多いため、生き物であるということが薄れている。食材として馴染みのある魚を並べることで海から捕られてきたものであるということに気付き、切り身のときにはわからない似た仲間同士の違いを知ることで生物としての海洋水産物への興味をもたせる。
展示物は地元で漁獲された魚を用いることで、福島県の漁業について考える機会を与える。
主な参加者は小学生で保護者と一緒に参加することで、共に漁業について考える機会となり、改めて漁業資源や海洋資源の持続可能性についての理解を深める。
似た魚を見比べることでその違いに気付き、どうしてその違いが出てきたのかを考え、生物多様性に直に触れる機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

クイズ形式として実施したことで、まず自分で考える事から始め、自然と興味をもたせるよう工夫した。さらに時間を決めて解答と解説を職員が行った。参加者は自分の答えがあっているのかを熱心に聞くために海の学びの効果を高めることができた。さらに興味を持った中で魚の生態や海洋環境などの生物学的な情報とそれらを食卓に届けるための漁業の重要性を解説した。



解説時には魚に触るように誘導したりして、見るだけで終わらない学習を心がけた。魚の違いによる硬さやぬめりの有無などを体験することでより心に残る学びとなった。解説終了後には参加者からの自由な質問を受け、飼育員とコミュニケーションを取る時間を設けた。参加者からは生物の見分け方や習性についての質問だけではなく、料理法についての質問などもあり食材であり、生き物である水産物への理解が深めることができた。

【来館者の声】

◯似ていてもそれぞれ特徴があり、初めて知ったこともありよかったです。

◯まだまだ知らないことが沢山あると感じた。

◯豊な海の資源を守っていかなければならないと思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

分業が発達している現代では、一般の人達にとって水産物はマーケットに並んでものでしかなく、入手方法である漁業については馴染みが少ない。福島県の漁業に着目することで港まち小名浜の地域の産業としての漁業の重要性をテーマとし、漁業の手法を学ぶとともに漁獲されている生物の生態を結びつけることで、水産物が単なる食材ではなく、自然の中に生息している生物であるということやその生息地である海についての興味をもたせることを目的として実施した。それらを同時に見せ、海に生息する生物を水産物として漁獲していくためには良好な海洋環境と漁獲対象物だけでなく生態系全体の健全な維持が重要であるという点を強調した。そのための手法として、拡大された漁具や実際に入ることのできるミニチュアの定置網の展示を製作し、漁業対象生物は、「生物」という側面と「食材」という側面があることを理解しやすいようにした。
ハンズオン展示を通して、見ることで魚の視点で漁業に触れることができ、食べられる側の気持ちにもなることで、命をいただく食育の機会とした。
また、福島県の海では 10 年前の原発事故の影響による漁業への影響が今も人の生活に大きな影響を及ぼしているということについても触れ、海の重要性について考える展示とした。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．小名浜機船底曳網漁業協同組合	魚市場見学イベント、活魚水槽の借用
2．福島県漁業協同組合連合会	魚市場見学イベント
3．福島県水産海洋研究センター	解説内容情報提供
4．福島県資源研究所	解説内容情報提供
5．福島県内水面研究所	解説内容情報提供

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．いわき市観光サイト	【企画展】アクアマリンこども魚市場　2021.7.13
2．Walker+	魚市場のような展示や「とる」「とられる」を体験できるコーナーも　2021.7.
3．NHK 福島	はまなかあいづ Today　2021.7.15
4．福島民報	こども魚市場開幕　2021.7.16
5．福島民報	漁業楽しく学んで　2021.7.17
6．県政広報ふくしまゆめだより	企画展「アクアマリンこども魚市場

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。